

## ○ 実証試験結果の概要

実証対象技術／ 環境技術開発者	窓用日射遮蔽フィルム(スマートフィルム SR1800YC)／ エスアイテック株式会社
実証機関	財団法人 建材試験センター
実証試験期間	平成20年11月10日～平成21年2月13日

### 1. 実証対象技術の概要

#### (原理・材質等)

基材のポリエステルフィルム表面に、赤外線遮蔽成分を含むハードコート剤を塗布し、裏面に粘着剤を塗布し、赤外線遮蔽層+PETフィルム+耐熱UVカット粘着層+粘着層保護フィルムの構造とし、これを窓ガラスに粘着層保護フィルムを取り去り、耐熱UVカット粘着剤層をガラスに密圧し貼付することにより、日射を赤外線の吸収により遮蔽する。  
色：淡グリーン

### 2. 実証試験の概要

#### ○ 数値計算における設定条件

日射遮蔽フィルムの熱・光学特性を測定し、その結果から、下記条件における対象建物の全ての窓にフィルムを貼付（室内側）した場合の効果（冷房負荷削減効果等）を数値計算により算出した。

#### 2-1. 対象建物

- 1) 住宅（戸建 RC 造）のLD部（床面積：20.49 m<sup>2</sup>，窓面積：6.62m<sup>2</sup>）
- 2) オフィスの事務室南側（床面積：113.4m<sup>2</sup>，窓面積：37.44m<sup>2</sup>）

※対象建物は、「標準問題の提案（住宅用標準問題，オフィス用標準問題）」（日本建築学会 環境工学委員会 熱分科 会第15回熱シンポジウム，1985年）に基づき設定した。ただし、オフィスの建物設定については、WGにおける検討を踏まえ、ガラス窓を縦1800mmから、縦2600mmに変更している。

※周囲の建築物等による日射の遮蔽は考慮しない。

#### 2-2. 使用気象データ

東京・大阪 90年代標準年

#### 2-3. 冷暖房設定

建築物	冷房設定温度（℃）	暖房設定温度（℃）	稼働時間
住宅	26.6	21.0	6～9時・12～14時・16～22時
オフィス	26.7	21.9	平日8～18時・土曜日8～13時

（参照：冷暖房設定温度については、（財）省エネルギーセンター，「平成17年度省エネルギー対策実態調査結果」，稼働時間については、「標準問題の提案（住宅用標準問題，オフィス用標準問題）」）

#### 2-4. COP（エネルギー消費効率）の設定

建築物	冷房（-）	暖房（-）
住宅	4.67	5.14
オフィス	3.55	3.90

（参照：（財）省エネルギーセンター，「省エネ性能カタログ 2006年 夏版」，「省エネ性能カタログ 業務用エアコン」）

#### 2-5. 電力量料金単価の設定

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価（円/kWh）*1	
			夏季*2	その他季*3
東京	住宅	従量電灯 B	22.86（消費電力120～300kWh/月）	
	オフィス	業務用電力	13.75	12.65
大阪	住宅	従量電灯 A	24.21（消費電力120～300kWh/月）	
	オフィス	高压電力 AS	12.08	11.06

\*1：電力量料金単価は、消費税相当額を含んだものである。

\*2：夏季…7月1日～9月30日

\*3：その他季…10月1日～6月30日

注）燃料価格変動に依存する燃料費調整単価は0円/kWhと仮定。

### 3. 実証試験結果

#### ○ 空調負荷低減性能実証項目／環境負荷・維持管理等実証項目

##### 【熱・光学性能測定結果】

		耐候性試験前	耐候性試験後
遮蔽係数	(-)	0.66	0.68
熱貫流率	(W/m <sup>2</sup> ・K)	6.1	6.1

##### 【参考項目】

		耐候性試験前	耐候性試験後
可視光線透過率	(%)	74.3	74.7
日射透過率	(%)	39.1	41.0
日射反射率	(%)	5.8	5.8

##### 【分光透過率・分光反射率(波長範囲:300nm~2500nm)の特性】

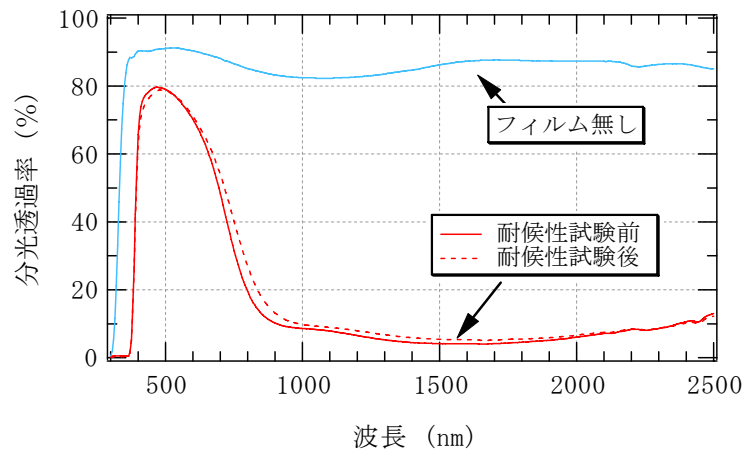


図-1 分光透過率測定結果

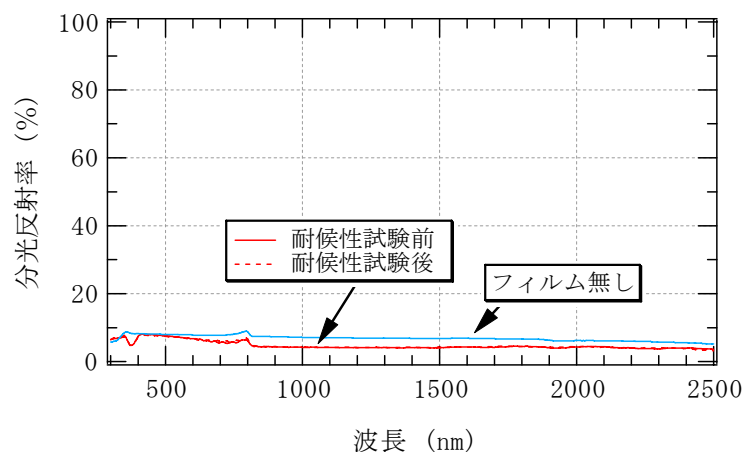


図-2 分光反射率測定結果

○ 標準モデルに基づく数値計算により算出する実証項目／環境負荷・維持管理等実証項目

【計算結果】

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建 RC 造)	オフィス	住宅(戸建 RC 造)	オフィス
冷房負荷 低減効果*1 (夏季1ヶ月)	熱量	124 kWh/月 (貼付前 727 kWh/月) 17.1 %低減	48 kWh/月 (貼付前 2196 kWh/月) 2.2 %低減	138 kWh/月 (貼付前 842 kWh/月) 16.4 %低減	58 kWh/月 (貼付前 2441 kWh/月) 2.4 %低減
	電気料金	608 円/月	186 円/月	717 円/月	197 円/月
冷房負荷 低減効果*1 (夏季6~9月)	熱量	451 kWh/4ヶ月 (貼付前 2293 kWh/4ヶ月) 19.7 %低減	158 kWh/4ヶ月 (貼付前 6407 kWh/4ヶ月) 2.5 %低減	486 kWh/4ヶ月 (貼付前 2558 kWh/4ヶ月) 19.0 %低減	183 kWh/4ヶ月 (貼付前 7029 kWh/4ヶ月) 2.6 %低減
	電気料金	2207 円/4ヶ月	601 円/4ヶ月	2520 円/4ヶ月	612 円/4ヶ月
室温上昇 抑制効果*2 (夏季15時)	自然室温*3	2.0 °C ( 38.5°C→36.5 °C)	0.5 °C ( 37.8°C→37.3 °C)	2.2 °C ( 39.8°C→37.6 °C)	0.5 °C ( 38.1°C→37.6 °C)
	体感温度*4	1.7 °C ( 38.1°C→36.4 °C)	0.2 °C ( 30.8°C→30.6 °C)	1.8 °C ( 39.3°C→37.5 °C)	0.2 °C ( 31.0°C→30.8 °C)

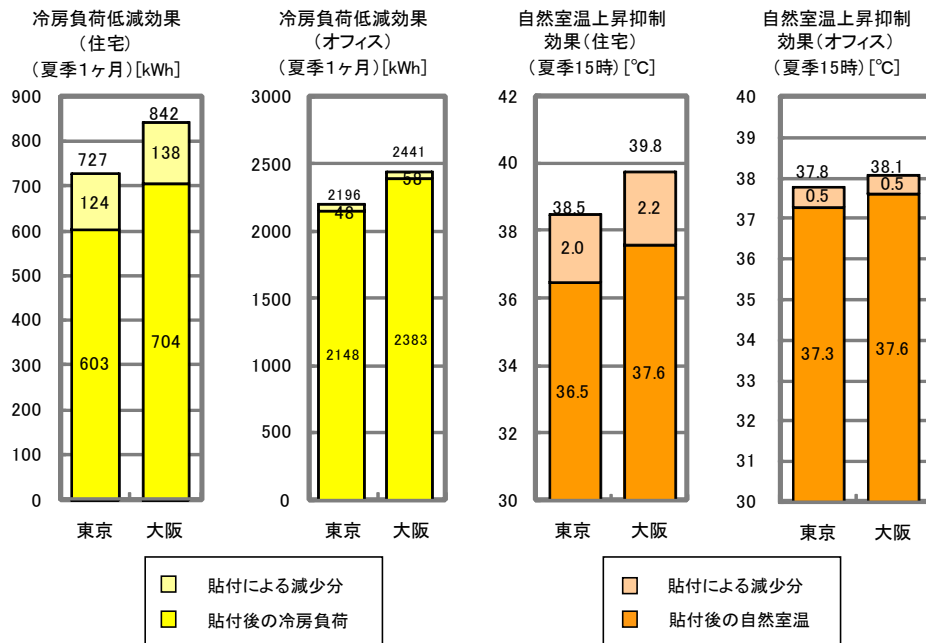
\*1: 夏季1ヶ月(8月)及び夏季(6~9月)において室内温度が冷房設定温度を上回った時に冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

\*2: 8月1日における, 対象部での室温の抑制効果

\*3: 冷房を行わないときの室温。

\*4: 放射温度を考慮した温度で, 室温と, 室内周壁等の平均放射温度の平均。

注) 数値計算は標準問題をもとに実施しており, 実際の導入環境とは異なる。



【参考項目】

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建 RC 造)	オフィス	住宅(戸建 RC 造)	オフィス
暖房負荷 低減効果*1 (冬季1ヶ月)	熱量	-114 kWh/月 (貼付前 62 kWh/月) -183.9 %低減	-95 kWh/月 (貼付前 488 kWh/月) -19.5 %低減	-97 kWh/月 (貼付前 199 kWh/月) -48.7 %低減	-62 kWh/月 (貼付前 836 kWh/月) -7.4 %低減
	電気料金	-509 円/月	-308 円/月	-458 円/月	-175 円/月
冷暖房負荷 低減効果*2 (期間空調)	熱量	49 kWh/年 (貼付前 2639 kWh/年) 1.9 %低減	-106 kWh/年 (貼付前 8295 kWh/年) -1.3 %低減	77 kWh/年 (貼付前 3128 kWh/年) 2.5 %低減	-40 kWh/年 (貼付前 9652 kWh/年) -0.4 %低減
	電気料金	422 円/年	-255 円/年	592 円/年	-20 円/年

\*1: 冬季1ヶ月(2月)において室内温度が暖房設定温度を下回った時に暖房が稼働した場合の暖房負荷低減効果

\*2: 夏季(6~9月)において室内温度が冷房設定温度を上回った時に冷房が稼働し、冬季(11~4月)において室内温度が暖房設定温度を下回った時に暖房が稼働した場合の冷暖房負荷低減効果

<春、秋の影響を考慮した年間での算出結果>

算出対象時期: 1年間

算出対象区域: LD(住宅), 事務室南側(オフィス)

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建 RC 造)	オフィス	住宅(戸建 RC 造)	オフィス
冷房負荷 低減効果 (年間空調) *1	熱量	781 kWh/年 (貼付前 2858 kWh/年) 27.3 %低減	299 kWh/年 (貼付前 7710 kWh/年) 3.9 %低減	873 kWh/年 (貼付前 3328 kWh/年) 26.2 %低減	341 kWh/年 (貼付前 8817 kWh/年) 3.9 %低減
	電気料金	3825 円/年	1104 円/年	4526 円/年	1104 円/年
暖房負荷 低減効果 (年間空調) *2	熱量	-403 kWh/年 (貼付前 346 kWh/年) -116.5 %低減	-267 kWh/年 (貼付前 1896 kWh/年) -14.1 %低減	-409 kWh/年 (貼付前 570 kWh/年) -71.8 %低減	-224 kWh/年 (貼付前 2623 kWh/年) -8.5 %低減
	電気料金	-1791 円/年	-867 円/年	-1927 円/年	-635 円/年
冷暖房負荷 低減効果 (年間空調) *3	熱量	379 kWh/年 (貼付前 3203 kWh/年) 11.8 %低減	32 kWh/年 (貼付前 9606 kWh/年) 0.3 %低減	464 kWh/年 (貼付前 3898 kWh/年) 11.9 %低減	117 kWh/年 (貼付前 11441 kWh/年) 1.0 %低減
	電気料金	2034 円/年	237 円/年	2599 円/年	469 円/年

\*1: 年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回った時に冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

\*2: 年間を通じ室内温度が暖房設定温度を下回った時に暖房が稼働した場合の暖房負荷低減効果

\*3: 年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回った時に冷房が稼働し、暖房設定温度を下回った時に暖房が稼働した場合の冷暖房負荷低減効果

<西日の影響など全方位を考慮した際の算出結果>

算出対象時期：1年間

算出対象区域：建築物全体（住宅），基準階事務室全体（オフィス）

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建 RC 造)	オフィス	住宅(戸建 RC 造)	オフィス
冷房負荷 低減効果 (年間空調) *1	熱量	1060 kWh/年 (貼付前 5834 kWh/年) 18.2%低減	1221 kWh/年 (貼付前 36682 kWh/年) 3.3%低減	1210 kWh/年 (貼付前 6823 kWh/年) 17.7%低減	1462 kWh/年 (貼付前 42106 kWh/年) 3.5%低減
	電気料金	5189 円/年	4510 円/年	6274 円/年	4745 円/年
暖房負荷 低減効果 (年間空調) *2	熱量	-775 kWh/年 (貼付前 3118 kWh/年) -24.9%低減	-985 kWh/年 (貼付前 14214 kWh/年) -6.9%低減	-688 kWh/年 (貼付前 3429 kWh/年) -20.1%低減	-807 kWh/年 (貼付前 14678 kWh/年) -5.5%低減
	電気料金	-3447 円/年	-3196 円/年	-3238 円/年	-2289 円/年
冷暖房負荷 低減効果 (年間空調) *3	熱量	285 kWh/年 (貼付前 8952 kWh/年) 3.2%低減	235 kWh/年 (貼付前 50896 kWh/年) 0.5%低減	523 kWh/年 (貼付前 10252 kWh/年) 5.1%低減	654 kWh/年 (貼付前 56783 kWh/年) 1.2%低減
	電気料金	1742 円/年	1314 円/年	3036 円/年	2456 円/年

\*1：年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回った時に冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

\*2：年間を通じ室内温度が暖房設定温度を下回った時に暖房が稼働した場合の暖房負荷低減効果

\*3：日射遮蔽フィルムの貼付により低減する年間の冷房負荷量と暖房負荷量の合計

【計算結果・参考項目に共通する注意点】

1. 計算結果および参考項目は、モデル的な住宅・オフィスを想定し、各種前提のもと数値計算したものである。
2. 計算結果・参考項目において設定した冷暖房の運転期間は、下記の通りとした。
  - ・夏季15時：8月1日の15時
  - ・夏季1ヶ月：8月1～31日
  - ・夏季6～9月：6月1日～9月30日
  - ・冬季1ヶ月：2月1日～28日
  - ・期間空調：冷房期間6～9月および暖房期間11～4月
  - ・年間空調：冷暖房期間1年間\*
- \*：設定温度よりも室温が高い場合に冷房運転を行い、設定温度よりも室温が低い場合に暖房運転を行う。
3. 日射が遮蔽され、室内が暗くなることに伴う、照明による熱負荷の増加は考慮していない。
4. 冷房・暖房負荷低減効果の熱量の欄にある「貼付前 ○○kWh/△△」とは、フィルムを貼付しない状態において、日射・電気機器等により室内に加えられる熱負荷の一定期間における総和を示している。
5. 電気料金について、本計算では日射遮蔽フィルムの有無による室内熱負荷の差を検討の対象としていることから、種々の仮定が必要となる総額を見積もることをせず、熱負荷の変化に伴う空調電気料金の差額のみを示している。
6. 数値計算は標準問題をもとに実施しており、実際の導入環境とは異なる。

(参考情報)

このページに示された情報は、全て環境技術開発者が自らの責任において申請した内容であり、環境省および実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

○ 製品データ

項目		環境技術開発者 記入欄	
製品名・型番		スマートフィルム SR1800YC	
製造(販売)企業名		エスアイテック株式会社	
連絡先	TEL/FAX	TEL:03-3862-0352	FAX:03-3862-0026
	Web アドレス	http://sit-jp.com/	
	E-mail	isida@sit-jp.com	
フィルム全厚		63 μm	
設置条件	対応する建築物・窓など	ビル・住宅	
	施工上の留意点	室内貼り	
	その他設置場所等の制約条件	熱割れの可能性がある網入りガラス等は避ける	
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		耐候性:約 10 年表面の汚れは水拭きで除去できる	
技術上の特徴		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近赤外線の吸収に優れたナノレベルの無機微粒子を耐候性に優れた樹脂に分散しフィルム化している。フィルム表面の硬度も高く傷がつきにくい。可視光透過率が高いため、採光への影響が少なく、780nm～2100nm の近赤外線を 80%以上カットする。</li> <li>・紫外線カット機能もあり、調度品の退色を抑制する。</li> <li>・従来の反射フィルムのような近隣への光反射公害が発生しない。また夜間室内からのクリアーな景観を維持できる。</li> <li>・窓貼りフィルムの耐久性で課題になっている粘着剤に、新規に開発した耐熱性 UV カット粘着剤を採用し、長期の耐久性を持たせた。</li> <li>・本フィルムを貼り付けることによりガラスの飛散防止効果がある。</li> <li>・色調:淡グリーン</li> </ul>	
コスト概算	イニシャルコスト		
	フィルム	¥5,000	1m <sup>2</sup>
	工賃	¥3,000	1m <sup>2</sup>
	合計	¥8,000	1m <sup>2</sup>

○ その他メーカーからの情報

平成 19 年度環境技術実証モデル事業 ヒートアイランド対策技術分野  
建築物外皮による空調負荷低減技術実証試験済み番号  
ETV SR1800YCR<051-0728>